

日本臨床検査医学会 2015 年度 第 1 回理事会 議事録

日 時 2015 年 3 月 28 日 (土) 12:00~15:30

場 所 学士会館 2F 202 号室 東京都千代田区神田錦町 3-28 (〒101-8459)

議事録署名人: 藤田清貴 理事、本田孝行 理事

出席者: 村田 満理事長, 前川真人副理事長, 山田俊幸総務理事, 諏訪部章会計理事, 米山彰子庶務理事
安東由喜雄, 北島 勲, 小柴賢洋, 藤田清貴, 東條尚子, 野島孝之, 清水 力, 本田孝行, 清島 満,
一山 智 (2 時間遅刻), 杉浦哲朗 各理事
高木 康 監事 (以上 17 名)

欠席者: 佐守友博, 横田浩充, 賀来満夫, 康 東天 各理事, 尾崎由基男 監事 (5 名)

I 開会の挨拶、議事録署名人

会に先立ち、村田満理事長から挨拶があり、藤田清貴理事、本田孝行理事を 議事録署名人に定めて理事会の議事を進めた。

II 報告事項

1. 支部報告

各支部報告の 2015 年度の支部総会・例会予定、支部地方会予定、支部所属の人事変更等について報告された。

2. 各種委員会報告

1) 学術推進化委員会 (藤田清貴 担当理事)

第 61 回学術集会シンポジウムで H24-25 年度学術推進プロジェクト研究の最終報告がなされ、学術推進化委員会において 4 課題とも応分の成果を得たと評価された。各研究代表者に規定に従い最終報告書・会計報告等の提出を依頼したことが報告された。

2) 編集委員会 (横田浩充 担当理事欠席のため米山彰子 庶務理事)

臨床病理誌に季刊誌グローバルニュースを同封しているが、この他、同封を希望するものがあれば、理事会承認を得たうえで、追加送料、手数料を実費負担して送付可能としたこと。COI 報告書の記入および提出のガイドを臨床病理誌、HP に掲載したことが報告された。

臨床病理 59 巻 9 号に掲載され、中国語に翻訳されて Sysmex Journal China に掲載された論文について、全文英文翻訳で Sysmex Journal International への転載依頼があったことについて、Sysmex Journal International は英文での投稿のため、全文英訳での掲載は問題があり慎重に対応すべきで要約の形であれば掲載可としても良いと考えるが、今後も同様な転載依頼があることが予想されることとして理事会へ意見が求められた。理事会で協議し、全文英訳での掲載は問題があるとの意見が多く、論文紹介として原著論文を講評する形もありとし委員会に差し戻すこととした。

昨年より、経験・技術に変わり、組み上がり 2 頁の Letter を新設したが、審査時、原著で受理できない投稿論文を Letter に区分変更を促すが 2 頁に収めることが難しく返却・取り下げとなることのあるため、組み上がり 4P、図表 4P 以内、英文抄録 150words の「短報」Short Communication 新設について協議し承認された。しかし、原著論文でも短いものがあり、区別がつきにくくなる場合が予想されることから、原著の最低ページ数を増やすことを検討するよう、編集委員会に伝えることにした。

現在、HP に臨床病理誌目次を掲載しているが、会員の利便性を考え、会員限定で HP 内に pdf 形式で全文を掲載し公開、または、掲載後 1 年経過した論文を J-STAGE などで閲覧する意見があったことについて協議し、pdf 形式での閲覧について賛成意見が多く、1 年経過した論文の J-STAGE 閲覧についても特に反対意見はなく委員会に差し戻すこととした。

3) 教育委員会 (北島 勲 担当理事)

2014 年 5 月に日本専門医機構が発足し新専門医制度に向けた基盤作りが進行中である。試験委員会の試験科目見直しとの整合性をとるため、2014 年 10 月に卒後研修カリキュラムに遺伝子関連検査を追加し、また、新専門医制度に見合う臨床検査専門研修カリキュラムを作成したこと、第 61 回学術集会において臨床検査を学ぶ若手医師の集いを開催したことが報告された。

4) 学会賞委員会（安東由喜雄担当理事）

2015年度学会賞選考日程について、臨床病理およびホームページに学会賞募集要項を掲載し、4月初旬に評議員に募集案内をメールで案内することが報告された。

5) 精度管理委員会（前川真人 委員長）

2014年度CAPサーベイ参加状況について、2014年度CAP国際臨床検査成績評価プログラム(CAPサーベイ)登録参加施設は119施設、遺伝子関連検査項目の充実と参加施設が12施設であったこと、2014年度活動実施報告、2015年度活動計画が報告された。

6) EBLM委員会（小柴賢洋 担当理事）

7月に委員会を開催し、委員長提案の世界規模基準値調査用に作成したパネル血清の利用で、検査値の施設間互換性を情報技術により確保できる「EBLMの実践に必要な疾患別症例データベース構築プロジェクト」を協議し、科研費の獲得のため、当初は血液・免疫・内分泌疾患の専門医の協力を得て、100～500症例／疾患を目標に研究申請する計画を立て、11月に5国立大の臨床系6教授に研究分担者の承諾を得て科研費申請を行ったことが報告された。

7) 倫理委員会（諏訪部章 担当理事）

臨床検査を終了した検体の業務、教育、研究のための使用についての見解（改定2010年）の運用について、4月に、全国検査部長・技師長会議参加施設を対象としたアンケート調査を行った結果、11月の岐阜での学術集会で本件に関するシンポジウムを企画予定である。が報告された。

8) ガイドライン作成委員会（東條尚子 担当理事）

2014年9月6日にキックオフミーティング、11月22日に第1回委員会を開催し、臨床検査のガイドライン2015JSLMの全体構成として、2012版に対して寄せられたアンケート結果を踏まえ、「検査値アプローチ」の部分を基盤として、「症候」「疾患」の項目を充実させること、分野毎の委員が担当執筆者を決定しすでに全執筆者から承諾が得られていること、第62回学術集会までの発刊予定を決定したことが報告された。

9) 検査項目コード委員会（米山彰子 庶務理事、佐守友博 担当理事 欠席のため）

2014年度は4回の委員会を開催したこと、JLAC10の新規登録として、分析物コード46件、識別コード9件、測定法コード9件、結果識別（固有）コード217件実施したこと、JLAC10の運用事例表の一般公開を実施したこと、JLAC11について議論し提言書をまとめる予定であることが報告された。

10) 広報委員会（小柴賢洋 委員長）

11月23日に第1回委員会を開催したこと、2月末まで、各委員会委員長にホームページ改訂での要望・意見のアンケート調査を行ったこと、広報すべき内容や実施状況について各関連団体広報委員会と連絡を密にしておくこと等が報告された。

11) 国際委員会報告（北島 勲 担当理事）

国際学会奨励賞について、国際学会奨励賞に関する規定ならびに応募申請書を改定し、2014年1月から12月までの国際学会発表者を対象に2015年3月31日を応募締切りで、2015年2月20日に応募申請を開始したことが報告された。

12) 医療安全委員会（小柴賢洋 担当理事）

第61回学術集会での医療安全シンポジウム（臨床検査専門医更新での必須単位のリスクマネジメントに関する講習会）は「臨床検査におけるチーム医療と果たす役割」をテーマとして開催したこと、第62回学術集会でのシンポジウムは、「感染対策から医療安全を考える（案）」をテーマとし、一般シンポジウム講演2題と村上啓雄先生（岐阜大）による特別講演を企画していることが報告された。

13) 会則改定委員会報告（米山彰子 担当理事）

同学院より検討依頼のあった臨床検査士制度 一級・二級臨床検査士規定改定、それに関連する当会定款改定の検

討、当会コンプライアンス委員会内規、会議室使用規則の加筆・修正を行ったこと、そして会則に関する用語を統一することが報告された。

14) 女性支援 WG 報告 (山田俊幸 担当理事)

2015年2月、当会で女性が活動しやすい環境を提供方策調査の目的で、会員を対象にアンケート調査を行い265名(回答率10%)より回答を得て、専門医認定更新に関連して約半数が学会参加、講習会・教育セミナー参加が困難なため7割以上の回答者が電子媒体による学術集会の公開(主にWeb配信)の希望があったこと、学術集会での託児所は約半数が必要、6割以上が有料が妥当、託児所使用料は、1時間あたり、500円以下が約半数、700円～1,000円が約40%、1日当りでは、2,000円、3,000円、5,000円がそれぞれ、ほぼ1/4を占め、出産・育児・留学などに伴う専門医取得・更新のサポート窓口は約7割が必要と回答したこと、その他、支援対象を限定しない広い支援を求める意見があったことが報告された。

15) 臨床検査室医療評価委員会 (東條尚子 担当理事)

臨床検査室の客観的な評価の根拠になるデータを集めるため、経営面(既存の解析ソフトの使用の可否)、臨床支援体制(検査相談業務、チーム医療への参画状態、医師教育、臨床治験・研究)、学問的支援(学会報告数、論文発表、各種認定検査技師数、検査部担当医師数)、検査態勢(感染症検査を中心とした受付体制、迅速性、報告体制)の4項目に分け、各検査室の立ち位置が分かるアンケートを作成し、調査実施予定であることが報告された。

16) 利益相反委員会 (諏訪部章 担当理事)

COI医学研究の利益相反(COI)に関する細則、自己申告書(案)を作成したこと、日本医学会から「医学研究に関する利益相反(COI)対応の現状についてのアンケート調査」に編集委員会と分担して回答したこと、IVD「臨床検査室グローバルニュース」を会誌に同封する件について審議し、理事会に条件付可と答申したこと、「臨床検査室グローバルニュース」に関するアンケートがCGIより直接実施されたことについて、COIの観点から問題ありと答申したことが報告された。

第61回学術集会報告(福岡2014/11/22(土)～11/25(火))(村田 満 理事長)

2014年11月22日(土)～25日(火)に福岡国際会議場において開催された第61回学術集会について、康東天会長より、野澤税理士事務所にも会計書類を送付し、会計処理がほぼ終了しており、1700万以上の返金予定であることが報告された。

3. 第62回学術集会報告(岐阜2015/11/19(木)～11/22(日))(清島 満 会長)

2015年11月19日(木)～22日(日)に長良川国際会議場、岐阜都ホテルにおいて、テーマ「臨床検査の発展～豊かな医療への懸け橋」で開催予定であり、主な講演内容、演題募集期間、参加費については会員の場合1万円、非会員は12,000円、大学院生5千円、学生は無料とすることが報告された。

4. 第63回学術集会報告(神戸2016/9/1(木)～9/4(日))(小柴賢洋 会長)

2016年9月1日(木)～4日(日)に神戸国際会議場において、第32回IFBLS国際学会、日本医学検査学会学術集会、兵庫県臨床検査技師会と同時期開催予定であり、9月2日(金)に第32回IFBLS国際学会の3学会合同式典は秋篠宮ご夫妻をお迎えし行うこと、運営会社はコングレ、旅行代理店はJTBに決定したこと、メインテーマは共通で「Challenge」、サブテーマは「臨床検査の連携・協働(仮)」、同時期開催の利点を活かすよう準備をし、事前登録の場合1万円、当日12,000円とする予定であること、スイーツセミナーを計画していること等が報告された。

5. 第10回特別例会報告(京都2015/4/13(月))(一山 智 近畿支部長)

2015年4月13日(月)にグランドプリンスホテル京都において、第29回日本医学会総会2015関西の分科会として、熊谷俊一会長(神戸大 名誉教授)のもと開催予定であり、確定したプログラムが報告され、多くの参加の依頼がなされた。

6. 2015年度からの名誉会員、功労会員、新評議員の推薦依頼について(村田 満 理事長)

名誉会員、功労会員、評議員の資格要件の細則、各支部の名誉会員、功労会員該当者が提示され、名誉会員、功労会員については、本人の承諾を得たうえで9月11日までに各支部から推薦することとなった。

評議員については、支部正会員の10%の評議員候補者定員数が示され、都道府県別、所属機関別に偏らないよう検討のうえ、9月11日までに推薦することとなった。

7. 第65回(2018年)学術集會長の推薦依頼について(村田満 理事長)

第65回(2018年)学術集會長について、学術集會あり方委員会の答申を受け12月の理事会で、開催場所は、支部持ち回り制となっているが均等に回すのではなく会員数(評議員数)に応じ、参加者の利便性を考慮して決定することとなったため、歴代学術集會長と支部別評議員数により協議し、最近の開催が比較的少ない複数の支部(北海道、東北、関東・甲信越、中国・四国)に推薦依頼し、9月11日までに推薦することとなった。

8. 認定試験日程等について

1) 第32回臨床検査専門医認定試験(村田満 理事長)

2015年8月1日~2日(土~日)、東京大学医学部で実施すること、試験要領は、臨床病理1月号、ホームページに公開したことが報告された。

2) 第7回臨床検査管理医講習・認定試験について(東條尚子 実行委員長)

2015年10月11日(日)、東京医科歯科大学で実施すること、試験要領は5月にホームページに掲載して、臨床病理5月号に掲載する予定であることが報告された。

9. 当会からの派遣委員推薦について(村田満 理事長)

前回理事会12月27日以降の当会からの派遣委員等について報告された。

- 1) 日本専門医機構社員は個人ではなく基本領域学会となったため理事長が社員となり、基本領域学会との連携の在り方に関するWG委員として山田俊幸先生を推薦した。
- 2) 日本医療安全調査機構の北海道の地域推薦窓口委員は、医療安全委員会委員の交代により藤井聡先生を推薦する。

10. 臨床検査振興協議会における「臨床検査のガイドラインハンドブック作製事業」の中止について

(村田満 理事長)

臨床検査振興協議会で臨床検査のガイドラインハンドブックを作製し研修生に配布しているが、本年度は、第一三共薬品(株)では、在庫があり配布可能であるため作製はしない連絡があり、臨床検査振興協議会理事会でも致し方なしと考えていることが報告された。

11. その他

1) 支部活動費、第62・63回学術集會補助金、専門医認定試験費用送金について(諏訪部章 会計理事)

諏訪部会計理事より、2015年度の補助金等の送金、それに伴う会計報告の提出依頼、口座開設依頼がなされた。

・支部活動費(一律20万円+支部会員数×500円)の送金。2014年度の支部会計報告の提出を依頼。

・第62回学術集會に400万円、第63回学術集會に100万円を補助金として送金。

第63回学術集會の送金口座開設を依頼。

・臨床検査専門医認定試験費用送金200万円を試験実行委員会に送金。

III 審議事項

1. 2014年度に関わる事業報告・会計収支決算報告について(米山彰子庶務理事、諏訪部章 会計理事)

事業報告書、貸借対照表、損益計算書、監査報告書が提示され、事業報告については米山庶務理事から会議、会員数、関連団体行事、経過及び実績、活動、各種委員会、対処すべき課題として学会の活性化、専門医ならびに管理医の養成そして倫理観の向上等の報告があった。

会計収支決算報告については、諏訪部会計理事から説明があった。

過去4年間の事業成績及び財産の報告があり、一般会計については、予算比、会費、検査診断事典の増収に対して、賛助会費、外販・広告収入の減収が見られ、賛助会費は4社が退会したためであり、本年度は常任理事はじめ理事に賛助会員の協力依頼がされた。支出としては、機関紙発行費用が500万円ほど増加したことについて、ページ数の増加と非会員の依頼原稿でのカラー代金、トピックスの原稿料などが主な要因であるため、編集委員会に、依頼原稿ではできる限りモノクロとしてカラーページは制限を設けるなど検討依頼された。委員会活動費は60万円程度予算より低いが、委員会活動としてメール会議や集會の機会の利用で節約していると思われる。結果として、

収支差額は 200 万円ほどの増収であった。

特別会計は、JACLaS からの寄付金が予算通り 1,200 万円あり、第 61 回学術集會に補助金として 1,200 万円を支出した。

アジア交流基金は、韓国での第 13 回 ASCPaLM 會議への補助金が 50 万円予算立てされていたが、韓国からの請求、送金口座の連絡がないため執行されていない。

学会賞基金は、3 社より学会賞寄金として 200 万円の収入、副賞 160 万円の支出と予算通りであった。

第 60 回学術集會会計報告は既に理事会で報告済みであるが、2014 年度に係る定時社員総会で、2014 年度会計報告と第 60 回学術集會会計報告し、承認を得たうえで合算して税務申告すること、なお、学術集會会計報告は、定時社員総会への報告、税務申告は会計のまとめの都合上 1 年遅れとなる補足説明、2014 年度末の現預金残高報告があった。

高木康監事より、2015 年 3 月 9 日に学会事務所で会計監査を行い、事業報告、会計書類の確認をし、理事職務遂行、会計報告書類は正しく記載し合致しておりの確であると監査報告があり、承認された。

2. 各種委員会委員の一部追加、変更、退任、再開等について（村田 満 理事長）

前回理事会 12 月 27 日以降の委員会委員の追加について提示され承認された。

- 1) 医療安全委員会北海道地区の委員として、藤井聡先生(旭川医大)を追加。
- 2) 検査項目コード委員会委員として、片岡浩巳先生（高知大）を追加。

3. 選挙管理委員会の設置について（村田 満 理事長）

平成 28・29 年度理事、監事改選のため役員を選出に関する細則により選挙管理委員会を設置するため、委員 5 名、尾崎由基男先生（山梨大）、島津千里先生（帝京大）、土屋達行先生（けいゆう病院）、三村邦裕先生（千葉科学大）、米山彰子先生（虎の門病院）が提案され、承認された。

4. 会則改定委員会での改定（案）について 米山彰子 担当理事

- 1) 同学院：一級・二級資格認定制度規定について、本認定制度は当会と同学院の共催であり、当会でも定款で事業と定められているため、その反映のため会則改定委員会で検討した改定案が示され、承認された。
- 2) 当会：会議室運用規則について、使用時間帯区分、飲料、コピー代等の具体的な金額の記載が修正された改定案が提示され、承認された。

5. 臨床検査医学講座の在り方と教授の選考にあたって当会の考え方（更新）（村田 満 理事長）

2014 年 12 月 27 日の理事会で当会ホームページに掲載し、必要な場合、引用可能すると決定しており、文面について 2015 年 2 月初旬の持ち回り理事会での意見を反映した文案が提示され承認された。なお、必要に応じては直接、当会から文書を送付することとなった。

6. 臨床検査専門研修カリキュラム最終案について（山田俊幸 総務理事、機構臨床検査領域代表）

前回、理事会に報告した改訂版をもとに、機構臨床検査領域の持ち回り審議での意見を反映した臨床検査専門研修カリキュラム案が提示され、承認された。

7. 新専門医制度の進捗状況と検討事項について（山田俊幸 機構臨床検査領域代表）

1) 専門医更新基準案、2) 専門研修プログラム整備基準最終版、3) 専門医研修施設アンケート

日本専門医機構の整備指針、雛形に従い、専門医更新基準案、専門研修プログラム整備基準を作成し、機構とのヒアリングによりほぼこれで確定するものと考えていると説明、報告があり、承認された。

専門医研修施設アンケート調査結果、各施設の専門医、研修可能な科目が報告された。初期臨床研修にあたり、できる限り臨床検査が選択されるよう努力すべきとなった。

8. 学術集會の運営会社の選定について（村田 満 理事長）

学術集會在り方委員会の答申での学術集會運営事務局の 3～5 年間の固定化について、時期としては、第 65 回学術集會からとし、運営会社選定については、学術集會在り方委員会に具体的な検討を依頼することとなった。

9. 臨床生理学会とのジョイントシンポジウム開催の提案について（村田 満 理事長）

日本臨床生理学会より、10月31日～11月1日、大宮ソニックシティで開催される総会（百村伸一会長：自治医大さいたま医療センター）に、ジョイントシンポジウム開催の検討依頼について検討され、担当を決定して進めることとなり、生理分野の諏訪部章先生、東條尚子先生に依頼することとなった。

10. その他（米山彰子 庶務担当）

2015年度理事会日程について以下の通りの予定であることが報告された。

2015年度理事会日程（開始時間：正午より）

第2回：7月4日（土）、第3回：10月3日（土）、第4回：12月26日（土）

IV 懇談事項

1. 特定機能病院の要件について（村田 満 理事長）

特定機能病院の要件のひとつの一定数の専門医配置で、基本領域の専門医として臨床検査専門医が含まれていないことについて、引き続き協議した。日本専門医機構の基本領域学会の専門医で含まれていないのは、当会以外も含めて4学会あり、連名で厚労省に要望することも一案となり、該当する学会の考えを伺うこととなった。


2. その他

特に無し。

V 閉会の挨拶（前川真人 副理事長）

前川真人副理事長より閉会の言葉があり本理事会は閉会された。

議事録署名人

藤田清貴 

本田孝行 